

石川県内における渋滞対策の対応方針

【石川県全体における対応方針】

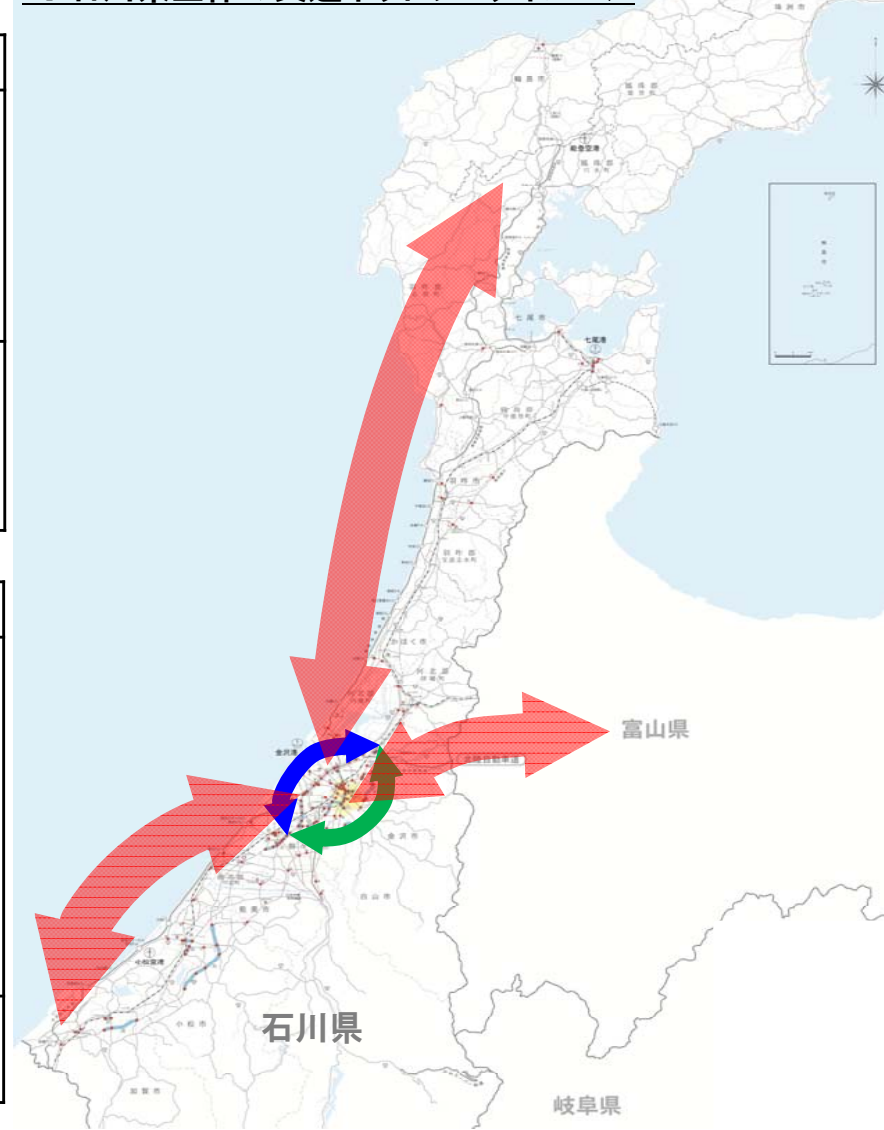
1. 石川県の概況

	概要
石川 市街地 の状況	<ul style="list-style-type: none">・石川県は、南は福井県に接し、北は能登半島となり日本海に突出している。県土は南北に長く(南北198.4km)、ほぼ中央に位置する県都金沢市に主な都市機能が集積している。・道路交通の流動方向は、国道8号や北陸道などの幹線交通基盤が整備された、金沢市を中心とした東西方向(福井県や富山県方面)の流動が顕著。・能登地域には広域的に観光名所があり、周遊性の確保や、金沢地域から能登地域への南北方向の連携強化が必要。
道路 交通 状況	<ul style="list-style-type: none">・県民活動に著しい影響を与えている道路交通渋滞は、朝夕のピーク時や観光客が多く訪れる休日の交通集中により、県内各所で発生。・主要渋滞箇所数は、県中心部である金沢市に特に集中しており、全体の約50%が集中。

2. 方向性

	概要
総合 対策等	<ul style="list-style-type: none">・石川県では、南北幹線の複線化と東西幹線の多重化を進める「ダブルラダー結いの道」整備構想に基づき、道路ネットワークの整備を進める。・将来の「みちのあり方」「みちづくりの進め方」「みちづくりの評価・点検」を定めた「新しい石川のみちづくり指針」を策定し、これに基づき効果的、効率的な対策を進める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"><p>みちのあり方: 生命・生活を守るみち、快適で豊かなまちづくり・都市づくりを支援するみち、地域の活力を高め、活性化を図るみち、細長い県土を一体化し、広域交流を進めるみち</p><p>みちづくりの進め方: 効果・効率をふまえたみちづくり、ストックを使いこなすみちづくり、県民と共に育てるみちづくり(協働のみちづくり)、地域の個性・環境に配慮したみちづくり</p></div>
道路 整備	<ul style="list-style-type: none">・高規格道路及び能登、金沢、加賀を連絡する広域幹線道路の整備や、既存ストックの有効活用など、ネットワーク機能の効率的な発現を図る。

3. 石川県全体の交通ネットワークイメージ



対応方針

■広域幹線道路や環状道路の整備・充実を図るとともに、ソフト対策による渋滞軽減への取り組みを図り、関係機関などによる検討組織を必要に応じて設け、対策検討及び対策効果を検証して参ります。

石川県内における渋滞対策の対応方針

【金沢市中心市街地エリアにおける対応方針】

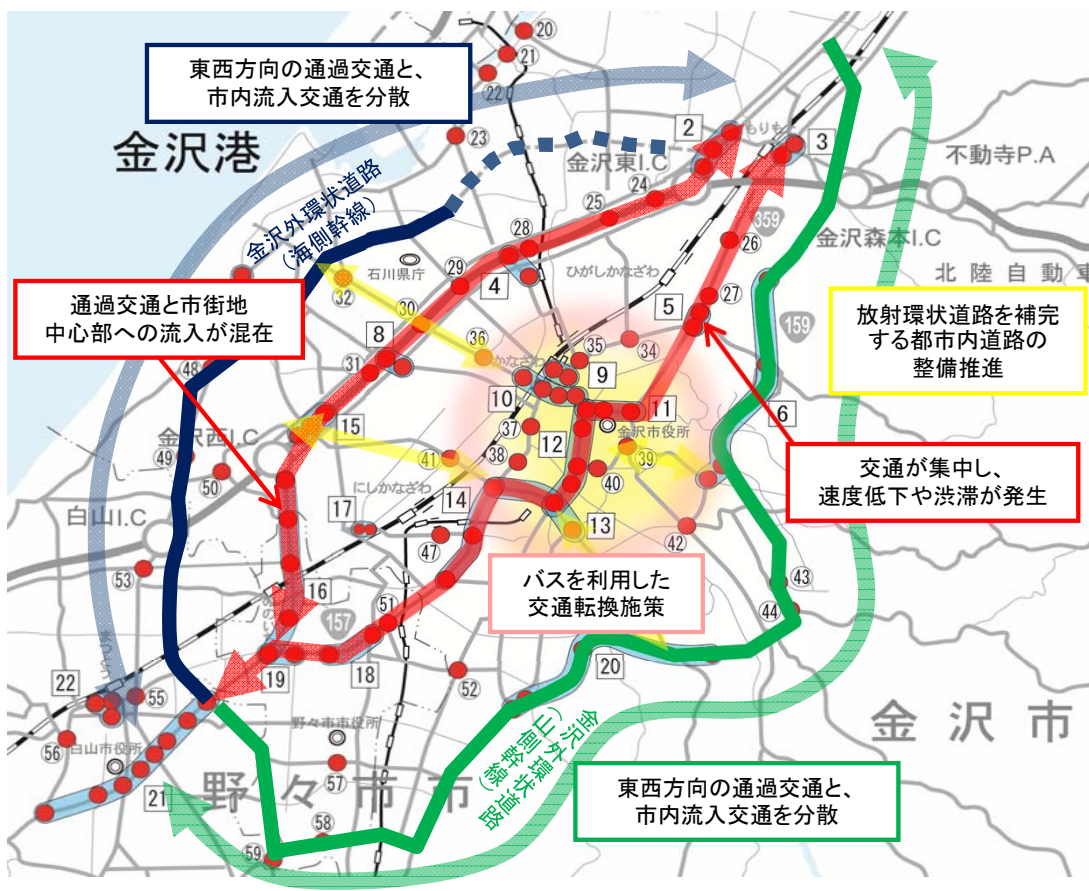
1. 金沢市中心市街地エリアの概況

	概要
金沢市中心市街地の状況	<ul style="list-style-type: none"> 金沢市中心市街地エリアは、金沢市中心市街地活性化基本計画(H24.3)の対象エリアに指定され、県都として都市機能が集積している。 非戦災都市であることから、城下町特有の都市構造を有しており、金沢城を中心とする放射状の道路網が都市の骨格を担っている。 北陸道、国道8号、国道157号、国道159号を始め、東西方向に交通網が発達しており、各路線沿いを中心に商業施設が集積している。
道路交通状況	<ul style="list-style-type: none"> 市内中心市街地では、国道157号、国道159号などの幹線道路に交通が集中し、速度低下や渋滞が発生している。 東西方向は通過交通と市街地中心部への流入が混在し、国道8号等では速度低下や渋滞が発生している。

2. 現在の対策等

	概要
道路整備	<ul style="list-style-type: none"> まちなか交通の軽減のために、外環状道路(海側幹線)の完成と外環状道路(山側幹線)の機能拡充を推進。 都市内の円滑、安全、快適な移動の確保を目指し、放射環状道路を補完する幹線道路の整備等を推進。 中心市街地は、マイカーに過度に依存しない移動手段を確保し、歩行者と公共交通を優先するまちづくりを推進。
ソフト施策	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通への利用転換策として、バス運行の定時制を確保するとともに、速達性、利便性を向上させる施策や、中心部における公共交通による移動を推進(まちなかシャトルや観光周遊バスの運行、バス専用レーンの拡充、バス停の拡充、香林坊・武蔵地区共通駐車サービスの導入、公共車両優先システムの整備、鉄道(北鉄)の利用促進等)。 「金沢自転車利用環境向上計画」による自転車利用の促進(駐輪環境整備、公共レンタサイクル等)。

3. 金沢市中心市街地エリアの主要渋滞箇所と現在の対策等



対応方針

■環状道路(海側幹線・山側幹線)の整備による交通容量の拡大を図るとともに、ソフト対策による渋滞軽減への取り組みを図り、対策検討及び対策効果を検証して参ります。